

証拠・証人

証人#1

主の言葉

ジョセフ・スミスは、金版を世に見せないように命じられました（教義と聖約5：3参照）。教義と聖約5：6-10を読み、ジョセフが見せてもよいとされたものを見つけてください。

5、6、7節で主が繰り返し言われている言葉に印をつけるとよいでしょう。

- わたしたちが、版が存在したことを知ることよりも、モルモン書の中の主の言葉を信じ、耳を傾けることを、主が重視されているのはなぜだと思いますか。

モルモン書について、ゴードン・B・ヒンクレー大管長（1910-2008年）は、次のように教えています：



「証拠を求める傾向の強い世の中において、モルモン書が真実で正当なものだという証拠を探すには、考古学や人類学ではだめです。多少役に立つにしても、この手法では見いだせません。言葉の研究や歴史的な分析によって、事実の確認はできるかもしれませんが、証拠そのものは見いだせません。その真実性を試すには読むことが必要です。これは神の書物です。」（ゴードン・B・ヒンクレー「信仰の4つの隅石」『リアホナ』2004年2月号、6参照）

少し時間を取って、モルモン書を研究して教えを受けた経験について深く考えてみてください。あなたの学習が自分の生活にどのような影響を与えたか、考えてみましょう。自分の考えを学習帳に記録するとよいでしょう。

証人#2

三人の僕の証

教義と聖約5：11-15を読み、主が最終的に版を見ることを許されたのはだれかを見つけてください。

- これらの節には、三人の証人の証言を強固なものにする、どのような内容が記されていましたか。

その後、マーティン・ハリス、オリバー・カウドリ、デビッド・ホイットマーは金版を見て、その実在を証することになります。教義と聖約17章を研究するときに、この出来事についてさらに詳しく学びます。

大管長会のダリン・H・オックス管長は、三人の証人について次のように教えています。



「彼らの証言は他の証人による証言と矛盾するところがありません。一人くらいその証を却下してもよさそうなものを、ばかにされたり、不利な状況に立たされたりするというのにもかかわらず、3人の善人が一致して、生涯この公表された証言に固執し続けたというのは、どのように説明できるでしょうか。モルモン書自体と同様に、善良で正直な人たちが何を見たか、その証言の中で厳粛に明言しているということが、一番の説明なのです。」（ダリン・H・オックス「証人マーティン・ハリス」『リアホナ』1999年

7月号、42）

モルモン書の冒頭にある「三人の証人の証」を読むか、モルモン書が真実であることをあなたに証した人々のリストを作るとよいでしょう。彼らの証言によって、自分の証がどのように強固になったか考えてください。

証人#3

聖霊

教義と聖約5：16とモロナイ10：4-5を読んでください。神がどのようにして御自分の子供たちにモルモン書の真実性を明らかにされるかを見つけてください。

- モルモン書が真実であることを、御霊はどのような方法で証するでしょうか。

管理ビショップを務めていたグレン・L・ペイス長老は、次のように述べています。



「聖霊からの証以外に証を得る方法はありません。ほかの方法では無理なのです。聖文には、聖霊からの証を受けることが伴わなければ、物理的な現れがどれほど無意味となり得るかを示す例が数多くあります。改心は天からの物理的な現れによってもたらされるのではないのです。」 (Glenn L. Pace, "The Elusive Balance," New Era, Mar. 1989, 49)

神会の一員である聖霊からの証が、何かが真実であるという物理的な証拠よりも大切だと思う理由をリストにしてください。モルモン書が真実であることを聖霊を通して得たとあなたが感じる証を、どんなものでも含めるとよいでしょう。